

# 事業報告書

令和5年3月31日  
一般社団法人スポーツアズライフ八戸  
代表理事 金濱 亨

第3期事業年度（令和4年度：2022年～2023年）における事業報告として、法人経営及び法人事業の目標と評価指標を下記にまとめる。

★評価指標 A：十分達成したと言える状況 B：達成まで課題がある状況 C：まだまだ努力が必要な状況

## 1 経営目標と評価指標(マネジメント・ガバナンス分野)

(1) 公明正大な法人運営と法人や法人の理念における認知度向上を図ること。

●評価報告(A)：多様なオウンドメディアでのきめ細かな情報公開及び会員への丁寧な情報発信の実践、情報公開イベント等を通じた政策提言を年2回以上実施する。

⇒部活動の地域移行に関する政策提言を青森県スケート連盟へ1回、県教育庁スポーツ健康課へ1回、計2回実施した。

(2) 財務において年度黒字化を達成すること。

●評価報告(B)：年度黒字を達成する。

⇒年度赤字が約6万円ほどであった。

(3) 関係諸機関や団体と積極的な協働連携を図ること。

●評価報告(C)：様々な関係諸機関との連携協働として、委託事業を2件以上受託し実施する。

⇒委託事業は0件の実施だった。

(4) その他法人事業に該当する事業活動について、適宜理事会での審議議決を以って迅速な試行錯誤と挑戦を具体的行動としてアクションすること。

●評価報告(A)：状況に応じてオンラインを駆使して迅速な対応、情報発信、審議議決を持ちながら実施可能な法人事業・プロジェクトに取り組む。

⇒迅速な対応で出遅れることのない法人事業を行うことが出来た。

## 2 法人事業の目標と評価指標(事業・各プロジェクト分野)

当法人が定款第3条2項に掲げる法人事業を具体化した以下6つの具体的事業・プロジェクトに重点的に取り組む。

(1) 地域スポーツ推進事業

① 氷都八戸を標榜する活動拠点である八戸市の冬季スポーツ推進に係る活動を展開すること。

ア スケートレクリエーションに関する広告及び活動を実施すること。

●評価報告(C)：スケートレクリエーションに関する広告及び活動を2件以上実施する。

⇒ 0 件の実施だった。

イ デポルターレ八戸の週末サークルとして「市民スケーターサークル」を定期開催すること。

●評価報告(B)： デポルターレ八戸の週末サークルとして 8 回以上の市民スケーターサークルを開催する。

⇒計 3 回実施することができたが、参加者が少なかった。

②地域部活動受皿プロジェクト「総合型地域スポーツクラブ デポルターレ青森プラットフォーム (DAP)」を設立し運営すること。

●評価報告(C)： 広告 2 件以上と所属地域部活動 1 団体以上を達成する。

⇒全く形にすることが出来なかった。

## (2)生涯スポーツ推進事業

①総合型クラブデポルターレ八戸のサークル活動をとおして、生涯スポーツ・レクリエーションスポーツ・生涯学習を主目的にした週末サークルのコミュニティを市民に提供すること。

●評価報告(A)： 常時月に 4 種目以上の多種目サークルの定期開催とチーム活動以外のスタッフ会員 3 名及び多世代の利用会員 15 名の新規入会を達成する。

⇒8/12 月は 4 種目以上サークル実施出来た。スタッフ会員は-1、利用会員は 22 名増加した。

②県教育庁スポーツ健康課からの委託事業である「笑顔でおやこ体操教室」を受託し事業実施すること。

●評価報告(C)： 受託事業を完遂(全 4 回計画予定)する。

⇒委託事業なし。

## (3)アスリート育成事業

総合型クラブデポルターレ八戸のチーム活動部門をとおして、2026 あおもり国スポでの活躍選手育成等の長期的視点で持続可能な成長を見据えた競技者育成を行うこと。

① スピードスケート競技者育成チームデポルターレ八戸 SC(D8SC)を運営する。

●評価報告(A)： 選手の自己ベスト全員更新

⇒体現した。

②ウエイトリフティング競技者育成チームデポルターレ八戸 WC(D8WC)を運営する。

●評価報告(B)： 選手の自己ベスト全員更新

⇒自己ベストは達成できなかったが、大会に出場できたことは大きい。

## (4)アスリート実践事業

正会員メンバー自身が各種競技会へ積極的にエントリーし、法人理念を体現する姿を広く見せること。

●評価報告(B)： 正会員全員が 1 回以上の競技会エントリーしアスリート活動を行う。

⇒3/4 で達成した。

## (5)スポーツツーリズム事業

特に氷都八戸におけるスケートツーリズムの概念を宣伝し、関係機関へ周知すると共に、実際の観光客に対するスケート観光事業を提供すること。

●評価報告(C)： スケートツーリズムについての広告及び活動について 2 件以上実施する。

⇒ 0 件の実施だった。

#### (6) イベントプロデュース事業

関係スポーツ団体や行政機関等と連携し、当法人目標達成及び法人事業に該当するスポーツ・文化活動の普及振興・コミュニティづくり・まちづくりに関わるイベント事業のマネジメント及び実践を行うこと。

●評価報告(A)：主催イベントを1件以上企画運営する。

⇒登山イベントを実施。

#### (7) 横断型事業「クラブ運営プロジェクト(総合型地域スポーツ・文化クラブデポルターレ八戸)」

①週末サークル活動(生涯スポーツ・レクリエーションスポーツを目的としたスポーツサークル、生涯学習を目的とした文化サークル)について、年間を通し継続運営すること。

●評価報告(A)：スポーツサークル活動48本/1年(1週間に1本計算)、文化サークル活動12本/1年(1ヶ月に1回計算)を実施する。

⇒スポーツサークルは62本/1年、文化サークルは0件の実施だった。

②競技者育成チーム(スピードスケート競技者育成チームD8SC、ウエイトリフティング競技者育成チームD8WC)について、年間を通し継続運営すること。

●評価報告(B)：所属選手の2大会以上参加し、自己ベストを更新する。

⇒大会参加は1だったが、年間を通して競技チームとして運営できたことは評価に値する。

③不定期イベント・ワークショップの開催に積極的に挑戦すること。

●評価報告(C)：バスケットボールガールズ限定クラスでは、20回/1年を実施する。その他随時柔軟にイベントを実施する。

⇒2回の実施で一区切りとなり、持続的な活動にすることができなかった。

これ以上の年度途中における詳細の事業・プロジェクト実施にあたっては、理事会での審議と決議を以って業務の執行にあたった。

### 3 コロナ禍の法人活動にあたり

(1)With コロナ(COVID-19の世界的パンデミックの段階移行)の活動にあたり、国や地方自治体等関係機関の感染症対策指示を基に、法人と会員におけるBenefit(有益)とHarm(害悪)のバランスを常時判断しながら法人活動・各プロジェクトを実践できた。

(2)各事業・プロジェクトにおいては、適宜感染症対策についてのアナウンスを行うとともに、具体的な感染拡大予防行動を正会員・スタッフ会員を中心に徹底して実践した結果、クラブ内での感染拡大は1件も引き起こさなかった。

(3)随時、社会状況を踏まえた各事業・プロジェクト実施における意思決定を行い、理事会の意思決定に基づき業務執行に当たる。

●評価報告(A)：関係の地方自治体(県庁や県教委、市庁や市教委)、行政機関(各公的スポーツ施設等)等の公式アナウンスを基に、適宜柔軟に状況判断し、活動の実施・中止等を意思決定する。クラブ内でのクラスター発生等を起こすことなく会員への価値還元を実践し一定の高評価を得る。

⇒クラブ内での対応は随一であったと捉えている。